

# 森ノ宮医療大学

## 第3回 学術セミナー開催のお知らせ

日時 平成23年12月6日（火）17:00～18:00

場所 森ノ宮医療大学 コスモキャンパス 東棟 4階 401教室

講師 看護学科 吉川 彰二 教授

演題 『難治性てんかん患者の小児医療から

成人医療へのトランジション・プログラムの開発』

わが国の小児医療においては、小児期に発症した疾患をもつ患儿が、その疾患を抱えたまま小児期を過ぎることをキャリアオーバーといいます。多くのキャリアオーバーした患者の診療や彼らの直面する心理社会的問題については、主に1990年代後半から取り上げられ始めました。彼らは、小児期に発症した疾患を抱えながら進学や就職などの発達段階の移行に伴う社会生活上の諸問題に直面することとなります。また、彼らの小児医療から成人医療への移行は、家族による疾患管理からセルフケアへの移行を意味すると同時に、家族とともに小児期から馴染んだ病院と医師・看護師をはじめ医療スタッフを含む医療環境と長い間に構築した信頼関係からの移行も意味しています。そのため、成人医療のシステムや患者－医師関係の変化、専門医の少なさ、患者の過度の依存性などによって、成人となっても小児医療において診療を受けているケースが多く、成人医療に適応できないという問題が起こっています。したがって、キャリアオーバーした患者の診療については、成人期の診療科への転科という診療体制だけでなく、その各発達段階に応じた移行への関わりのあり方が重要であると思われます。

米国では、慢性疾患や障害をもつ子どものトランジションが一つの問題として、1980年代から学会でテーマに掲げられました。そして、その後の積極的な取り組みの結果、現在、思春期の人たちを対象にした数多くのトランジション・クリニック（移行外来）が開設され、トランジション・プログラムが整えられています。わが国においても、今後、慢性疾患を抱えてキャリアオーバーする人々の増加が見込まれる中、成人医療への移行に向けた、よりいっそうのケアの充実が期待されています。しかし、成人医療への移行に向けたケアは、決して十分とはいえません。そこで今回の学術セミナーでは、北米におけるトランジション・ケアについて概観するとともに、現在、計画中である研究について報告をしたいと思います。